

水稲、スイートコーン／低コスト化、省力化、栽培技術の確立・向上  
 ほ場の大区画化に伴い自動操舵田植機を導入、併せて育苗を  
 マット苗へ転換し更なる省力化・省人化・低コスト化を実現  
 ～株式会社 grow（北海道上川郡東川町）～

経営体の概要

事業実施前：平成28年  
 基幹作物：水稲、スイートコーン  
 経営面積：28.5ha



事業実施後：令和6年  
 基幹作物：水稲、スイートコーン  
 経営面積：28.4ha

土地改良事業による生産基盤（農地、農業水利施設等）の変化

【事業実施前】

- 農地が小区画不整形で排水不良等により生産性が低く、耕作放棄地が増加するおそれ。
- ほ場が分散しており、非効率な土地利用。



排水不良な水田ほ場



【事業実施後】

- 国営大雪東川第一地区土地改良事業（平成28年～）で農地の大区画、排水改良、用水路のパイプライン化が図られ、作業効率が向上し、営農条件が大幅に改善。
- 農地の集積・集団化が図られ、農業経営の合理化と効率的な土地利用が可能。

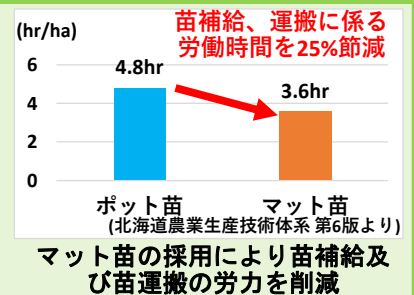


大区画化水田ほ場

営農改善、経営転換等のポイント

①自動操舵田植機による省力化・省人化で経営の低コスト化

ほ場の大区画化に伴い、自動操舵田植機を導入したことで、作業時間が節減されたとともに、運転手が苗補給を兼ねることで苗補給人員の1名削減につながった。さらに、水稲育苗方式をポット苗からマット苗に転換したことで育苗箱数を削減し、苗補給や苗運搬等の労力も節減された。こうした取組により労働人員の削減（事業前8人→事業後6人）を図り、経営の低コスト化につながった。



②大型機械の導入や排水改良による省力化

ほ場の大区画化に伴い、大型機械（作業幅5.6mの代かき機等）の導入が可能となり、作業幅拡大によってほ場作業における巡回数が減少し、農作業の省力化や、巡回操作減少によるオペレーターの負担軽減にもつながった。また、暗渠整備に伴う排水改良により水稲収穫後の秋起しが可能となったことで、翌春の雪解け後の排水性向上や、土壌が砕けやすくなるなど、更なる省力化が図られた。



秋起しの実施

③栽培技術の確立・向上

用水路のパイプライン化により用水の安定確保が図られ、必要なときに水を入れることが出来るようになったことから、安心して水稲の中干しをすることが可能となった。これにより、中干し期間の延長が可能となり、令和6年にはJ-クレジットの取組に参加するとともに、倒伏防止による作業性と品質の向上につながっている。



倒伏がなく効率的な水稲収穫

事業概要

事業種：国営緊急農地再編整備事業  
 関係市町：北海道上川郡東川町  
 受益面積：1,335ha  
 事業期間：平成28年度～令和12年度  
 事業目的：区画整理  
 主要工事：区画整理 1,157ha



位置図

<問い合わせ先>

北海道開発局  
 農業水産部農業計画課  
 計画第1係  
 電話：011-709-2311  
 (内線：5522)

(令和7年度調査時点)